

# 授業改善推進プラン

氏名 ( 小平 悠海 ) 担当教科 ( 社会 ) 学年 ( 1 学年 )

## 学力調査・アンケート等の課題分析

文京区学力調査結果(社会)5月実施によれば、目標値(正答率62.4%)に達しない生徒は25名中15名である。さらに、正答率50%未満の生徒は25名中9名である。在籍生徒中6割が目標値に達せず、基本的な内容の定着に不安がある生徒が多数である。一方、正答率が80%以上の生徒は4名、90%以上の生徒は0名である。

第一回定期考査では、達成率80%以上の生徒は25名中4名、50%未満は9名であった。

授業アンケート結果(7月実施)によれば、「社会の授業はわかった、できたと感じる機会がありわかりやすい」という問いに「あまり当てはまらない」と回答した生徒は2名(7.4%)、「社会の授業で学ぶ楽しさを感じる」という問いに「あまり当てはまらない」と回答した生徒は5名(18%)である。

## 授業等の課題分析

一学期、生徒との会話の中で「社会科を今までまじめに勉強してこなかった」「国語や数学に比べてどうしても後回しにする」等の発言を複数から得た。中学入学までの期間に、社会科の学習に向かう姿勢と学習習慣が身に付いていない生徒が多い。授業においては、成績を向上させたい(学力を身に付けたい)と考える生徒も、「どのように学習に取り組んだらよいかわからない」「勉強しているけれど身に付かない」と考えている。(授業者の見取りによれば、定着のための学習時間や取組等が不足している場合が多い。)



## 目指す授業

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成する授業。



## 授業改善のための具体的な方策

- ・画像や映像などの資料を活用し、さまざまな視点から生徒の関心を広げる。教科書の表記等を参考にしながら、事象について説明する練習を行い、読解力・表現力を向上させ、基礎的学力の向上を図る。
- ・授業の振り返りを充実させ、「今日は～について学んだ。」など自分の言葉で説明することができるようにする。キーワードを意識させながら授業に参加させ、自力でまとめる機会を設定する。

# 授業改善推進プラン

氏名 ( 小平 悠海 ) 担当教科 ( 社会 ) 学年 ( 2学年 )

## 学力調査・アンケート等の課題分析

授業アンケート結果によると、「社会の授業に積極的に取り組んでいる」という問いに 30 名中 29 名が肯定的に回答している。しかし、「社会の授業で学ぶ楽しさを感じる」という問いに 3 名が「あまり当てはまらない」と回答した。第一回定期考査では受検者 33 名中 12 名が 50 点以下という結果であり、基礎的な学力の定着に課題がある生徒が多い。(定期考査は標準的な難易度で作成している。)

## 授業等の課題分析

学習内容の振り返りとして、自分の言葉でまとめ、表現する課題を毎時間行っている。以前はキーワードを思い出すにとどまっていた生徒も、継続して取り組んできた結果、文章にして表現する(話す)力がついてきている。授業では全体として意欲や素直さが十分あるが、小テストや定期考査の得点に結びついていないことから、授業における内容理解をより着実なものにするとともに、学習習慣の定着を図る必要がある。



## 目指す授業

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成する授業。



## 授業改善のための具体的な方策

- ・未だに「社会の学習は暗記」と考えている生徒もいる。社会的事象に対して「なぜ?」「どうして?」の姿勢を育てるよう、授業の発問を工夫する。
- ・小テストを実施することで生徒が復習のきっかけを作りやすいようにする。
- ・授業の内容を「～についてわかった」など自分の言葉で説明することができるようにする。その際、教科書の表記やノートを参考にしながら答える練習を行い、知識力とともに判断力や表現力も向上させる。
- ・画像や映像などの資料を活用し、さまざまな視点から生徒が関心を広げることができるようにする。

# 授業改善推進プラン

氏名 ( 小平 悠海 ) 担当教科 ( 社会 ) 学年 ( 3学年 )

## 学力調査・アンケート等の課題分析

第1回定期考査では在籍21名中8名が90点以上という結果であり、学習内容が定着している生徒の割合が増加している。(定期考査の難易度は標準的であるが高得点者が多い。)また、2年次の授業アンケートでは、「わかった、できた、と感じる機会がありわかりやすい」という問いに2名が「あまり当てはまらない」、1名が「当てはまらない」と回答したが、今年度は1名が「あまり当てはまらない」、1名が「当てはまらない」と回答した。

## 授業等の課題分析

「近代後半に日本がつき進んだ戦争の原因を考える」や「戦後の文化について概要をとらえ自分の言葉で説明する」など、多面的に事象を把握し考察する授業内容に対しても粘り強く意欲的に取り組む生徒が増加してきた。(昨年度比)

意見を共有することには慣れてきたが、互いの意見に質疑を交わし深め合うまでには至っていない。(対話的な学びの充実をさらに進める必要がある。)

## 目指す授業

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成する授業。

## 授業改善のための具体的な方策

- ・生徒の学習活動の土台となる基礎的な知識や理解の向上を図るため、授業内の振り返りや復習を充実させる。
- ・自分の考えをまとめ、論述する機会を増やす。(話すこと・書くこと)
- ・日々の暮らしや身近な生活や自己の将来につながるテーマを授業で多く取り上げ、考える機会を設定する。
- ・小テストを実施して復習の機会を増やす。